

日野市立教育センター一報

教育センターだより

第12号 平成19年 6月30日



日野市立教育センター

〒191-0042 日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

※一般教育相談 592-1160
(10時～17時)

※わかば教室 592-0863

開館時間 午前8時30分
～ 午後5時15分



日野市の教育の課題や

市民のニーズに応える活動を通して

日野市立教育センター 所長 篠原 昭雄

「教育センターではどんなことをやっているのだろう」という市民の声を時々耳にします。教育センターは、日野市の教育の充実と振興を図るために開設されて4年目に入っています。最近、教育改革の動きや、家庭環境を含めた子どもを取り巻く社会環境の変化を反映してか、日野市においても新たな教育課題や子どもの教育に関する市民のニーズが年々増えています。教育センターでは、こうした課題にどう対応したらよいか、保護者や市民のニーズや要望にどう応えるかを目的に、調査研究、研修、相談という三つの部とそれぞれの係・担当の所員が、学校の先生方や教育関係者の協力を得ながら活動しています。

今年度の事業については、年度当初の『教育センター要覧』に、組織や係を含めて詳述して関係者などにお届けしてありますし、前年度の事業の内容や成果は、年度末に『教育センター紀要』をはじめ『相談部研究紀要』、各係からの報告書などにして刊行しています。また、年間のその時々々の活動の様子については、利用者に分かりやすく具体的に情報をお知らせするために、この『教育センターだより』を年3回発行しています。

本年度も三つの部を中心に日野市の重要な課題に取り組んでいます。

調査研究部は、学校や行政などの重要な課題や施策に情報を提供するシンクタンクとしての役割を持つものですが、基礎調査研究係では、**教育課程**（カリキュラム）**研究**として、幼一小一中学校の円滑な接続のための在り方を、教育経営係でも昨年に引き続き**ICT活用に関する研究**を、ふるさと教育係では、子どもたちに“**郷土日野**”の理解を深めさせるための研究をそれぞれ行っています。また、教科等教育係では、市教委の学校課と協力して「**ひのっ子教育21開発委員会**」の活動をサポートしてICT活用教材の開発の研究を行っていますし、教育資料・広報係では、教育センターの図書・資料をいかにして利用・閲覧に供するかの観点から、収集・整理するとともに**IT化**を進めることにしています。

研修部では、学校課で企画された初任者、学習指導、2・3年次教員授業力アップ、特別支援、幼児教育、教育相談などの研修を指導主事と所員が協力して行っています。また、すべての教員がコンピューターを活用して授業ができる**ICT活用研修**や**e-Learning**による研修も進めています。

相談部は、一般教育相談と学校生活相談（不登校などの適応指導「わかば」教室など）の二つの係で活動していますが、両者ともそのニーズが急増していますので、連携を密にしながら要望に応えるよう努力しています。

それぞれの具体的な活動の様子は、次ページ以降に紹介していますのでご覧ください。

この『教育センターだより』は、現在の教育センター事業の目的や活動状況をお知らせし、親しみをもち身近に感じていただくための『所報』です。教育センターの活動が良かったかどうかは、何と言っても学校・市民・教育行政などの関係者がセンターを利用し、また活動の成果を活用していただくことにあります。

以上のような趣旨をご理解いただき、高幡台の地に足をお運びいただくことを歓迎いたします。

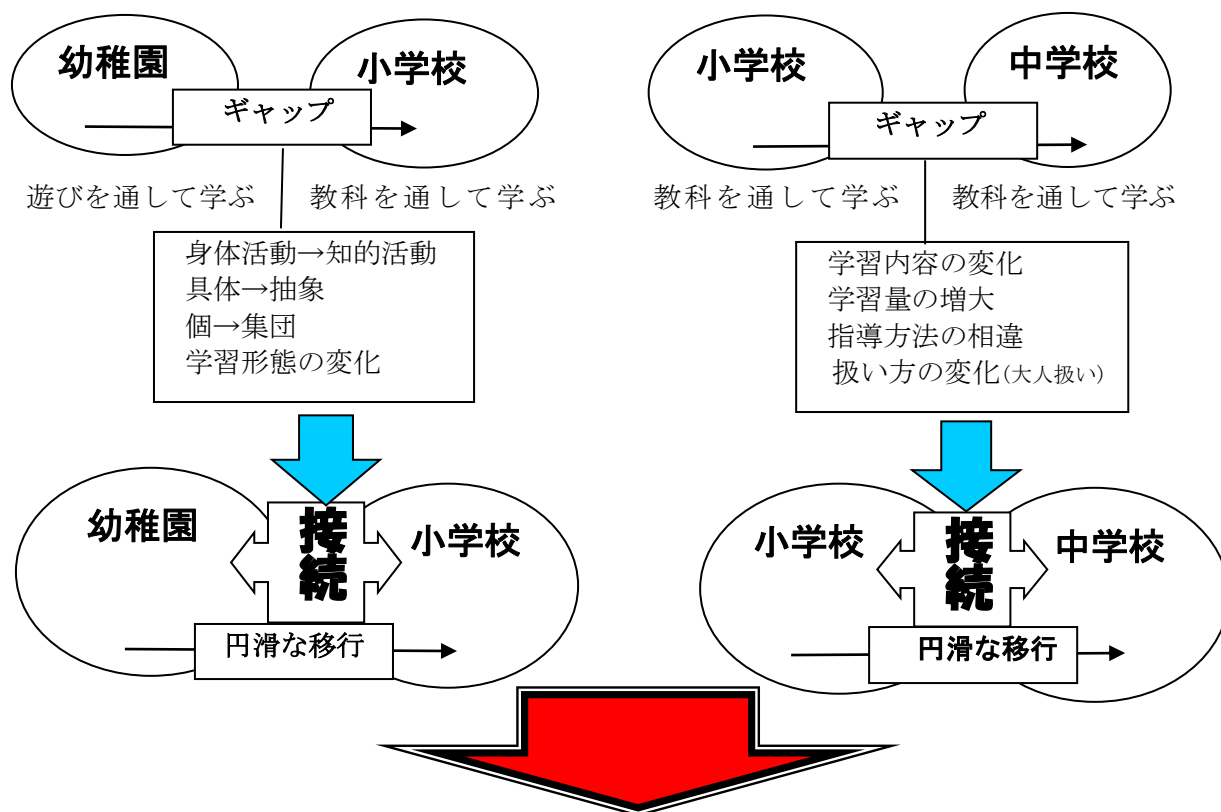
平成19年度

調査研究事業の年間活動のあらまし

教育センターの調査研究は、日野市の教育の当面する課題である「教育過程（カリキュラム）」、「ICT の活用に関する実践的な調査・研究」、日野市教育委員会学校課との協力事業である「ひのっ子教育 21 開発委員会」及び「郷土教育推進」を、教育センター職員と学校・教育行政・社会教育関係者等と連携して行い、その結果情報を提供するとともに、学校における授業力及び地域の教育力向上を図り、日野市の教育の向上に資することをねらいとしています。

1. 教育課程（カリキュラム）の研究

基礎調査研究係



「小1プロブレム」、「中1ギャップ」問題の課題解決を目指す調査研究

(日野市教育委員会教育課程編成上の重点取り組み)

幼（保）・小・中連携教育の推進



国語力・読解力を取り上げて研究を進める

2. ICT 活用に関する研究

教育経営係

ICT 活用研究委員会 = 日野市の ICT 教育を推進

本年度日野市が取り組んでいる「頑張る地方応援プログラム」の重要な柱！

学校教育における ICT 活用教育の充実を図り、日野市教育委員会の重点目標である「確かな学力の向上の保障」をすることをめざし、四部会を組織し、調査研究を推進します。

(1) 四部会の主な調査研究内容と委員の構成

ICT 活用実践部会

★先導的な授業実践及び校務支援システムの運用

(モデル校：日野第三小学校・大坂上中学校・平山中学校・日野第三中学校、
推進校：潤徳小学校、夢が丘小学校)

ICT 環境整備策定部会

★ICT 活用教育整備計画、今後の日野市の ICT 活用教育にかかわる計画策定等

(情報システム課・庶務課・学校課・ICT 活用教育推進室・

学校代表 (委員長：日野第三中学校 山口俊浩校長

副委員長 夢が丘小学校 河野和昌校長)

ICT 活用推進部会

★セキュリティポリシーの遵守、監査計画

(情報システム課・ICT 活用教育推進室)

教員研修部会

★教員の ICT 活用指導力の向上をめざす研修企画・運営等

(学校課・教育センター・ICT 活用教育推進室)



— 信州大学東原義訓教授の指導のもと会議が開かれる—

(2) 本年度の具体的目標

ソフト面

○ICT 活用教育によるわかる授業、魅力ある授業の実現→ICT を活用した学力の向上

※全ての小・中学校の先生がコンピュータを活用した授業ができるようにする。

○校務支援システムの活用による校務の効率化と情報の共有化→ICT 環境整備・校務の情報化・教育の質の向上

○ICT 指導力向上のプロジェクト実施 (ICT 活用指導力向上のための研修実施・研修会への参加、授業公開・実践での公開検証と授業改善) →教員の ICT 指導力の向上

○セキュリティーポリシーの遵守

ハード面

○中学校の校内 LAN 及び ICT 機器、ソフトの導入 (9月1日から活用できるように)

◆全国の学校 Web サイト「日本の学校 <http://www.i-learn.jp/>」や、ICT 活用教育モデル校・推進校の日々の取り組みが紹介されている日野市 ICT 活用教育推進室のホームページをご覧ください。

3. ひのっ子教育 21 開発委員会の研究

教科等教育係

ひのっ子教育 21 開発委員会は、一昨年まで進めてきた一人一人の教員の研究能力の向上を目指したひのっ子教育 21 研究員会から、日野市教育委員会の教育課題を解決する組織に生まれ変わり 2 年目を迎えました。この委員会は、ひのっ子教育 21 開発委員会研究事業実施要項に基づき設置されています。

- (1) 目的：日野市教育委員会に、ひのっ子教育 21 開発委員会（以下開発委員会）を置き、日野市における学校教育の振興を図る。（同 第 1 条）

(2) 内容：開発委員は、日野市教育委員会の教育目標の達成を目指し幼児教育、教科・領域等の教育内容、教育方法、教材開発の実践的研究を行う。
（同 第 2 条）

今年度は日野市教育委員会の進める ICT 教育の推進を目指し、下記の主旨・目的・組織で課題解決に向け研究を進めます。

(1) 趣 旨：教育用コンテンツの開発及びインターネット上にある教材研究に基づく授業実践

(2) 目 的：

《小学校分科会》

学力向上のために、ICT を活用した算数科の教材を開発し、評価結果を指導に活かすこと。

更に、ICT を活用した算数科の教材を活用した授業実践を進め、目標の達成状況の把握及び補充教材の作成を通して、
個に応じた指導方法の向上を図る。

《中学校分科会》

インターネット上にある教科についての効果的な教材について吟味し、それを活用した授業実践を行い、今年度新たに導入される中学校の ICT 活用化に向けての充実化を図る。

(3) 組織・運営

① 委員長（小・校長 1）、副委員長（中・校長 1、中・副校長 1、小・副校長 1）

② 委 員

小学校：算数における児童のつまづきに応じて効果的な指導方法を工夫してきた実績があり、
個に応じた様々な指導方法を考案できる教諭または主幹で、3 年生以上の算数の指導にあたる教諭または主幹（委員数 14 名）

中学校：教科、あるいは道徳の指導が優れており、指導法のアイディアを出せる教諭または主幹（委員数 6 名）

③ 教 科 小学校：作成及び活用する教育用コンテンツは算数 中学校：各教科

4. 子どもたちに伝えよう「ふるさと日野」の自然・歴史・文化

郷土教育推進研究委員会

目を通していただけたでしょうか。4 月末に市内の小学校・中学校全学級に『郷土日野』指導事例 第 2 集』を配布いたしました。

昨年度行った調査によりますと、『郷土日野』指導事例 第 1 集』については、あることを知らない、内容を見たことがないという回答が 50%に及び、また郷土教材活用の必要性を認めても地域を知るゆとりがない、配当時数では教科書の内容を指導するのが精一杯であるという意見も多数いただきました。この結果をふまえ、第 2 集は“教師が知らなければ子どもたちに指導はできない”を推進研究の基とし、より使いやすく、より充実した内容に心がけ、努めてきました。

3 年目になる今年度は、一昨年度からの研究主題「郷土意識を育む指導のあり方ー郷土と人々との関わ

りの理解をとおしてー」を継続し、「日野が好き」「日野が誇り」と、「ふるさと日野に」に自信と愛着をもつ「ひのっ子」を育成するために、市内すべての小学校・中学校で郷土教育が根づいていく研究を次のように進め、第3集を作成します。

- (1) 目的 ①郷土教育が育む子ども像の育成を目指す。
②教育課程に郷土教材活用の位置づけを具現化する。
③学校・郷土資料館・新選組のふるさと歴史館・図書館・教育センターが協働研究をする。

(2) 内容及び方法

- ①郷土教育が期待する子ども像の育成を目指した授業実践例を作成する。
②第1集、第2集に引き続いて、授業に使える郷土教材の収集、開発を行う。
③学校が実践化しやすい郷土教育に関する指導計画例を提示する。
④指導事例第1集、第2集の郷土教材(写真)を電子データ化する。

(3) 組織・運営

委員長(日野四中校長 秋山譲児)
副委員長(日野一小校長 小杉博司)
学校関係者(小・中教諭)、郷土資料館、
新選組のふるさと歴史館、図書館、
学識経験者、指導主事、センター所員

多摩八王子競馬場・牧場(昭和9年頃～40年)
指導事例第2集の15ページを参照



研修部

1. 教職員の研修

教職員研修係

本年度は、職層に応じた研修Ⅰ、教員のライフステージに応じた資質・能力を育成するため、現職経験に応じた研修Ⅱ、今日的な教育課題解決のため、教育課題研修(研修Ⅲ)を行います。

また、研修Ⅳとして、幼児教育及び、専門研修全体講演会、人権教育研修会、心の教育研修会が含まれます。

特に、夏季休業中に市民会館においての教職員全体講演会は、学識経験者による講演を中心とした研修が行われますが、これは他では聞くことができない専門分野の講師が選ばれ、その講演内容は毎年のように教職員から好評をいただいています。これには研修係のみならず、所員全員の協力体制をもってあたっています。

(研修内容)

ア 職層に応じた研修 (研修Ⅰ)

- ・学校組織マネジメントⅠ(校長) (2回)
- ・学校組織マネジメントⅡ(副校長) (2回)
- ・学校組織マネジメントⅢ(主幹) (2回)

イ 現職経験に応じた研修(研修Ⅱ)

- ・指定研修(初任者研修) (15回)
- ・若手教員養成研修 (6回)
- ・指導者養成研修 (3回)

ウ 教育課題研修 (研修Ⅲ)

- ・評価、国際理解教育、環境教育、教育相談、および郷土教育など(11回)
- ・生命尊重教育については多摩動物公園のご協力をいただき、夏季休業中に丸2日間をかけて動物の飼育についての講義と実習にたずさわっています。

エ 特別課題研修 (研修Ⅳ)

- ・幼児教育研修、専門研修全体会、人権教育、および心の教育など。(8回)





日野市教育センターでは、相談部として一般教育相談係（通称 相談室）と学校教育相談係・わかば教室（適応指導教室）が相談にあたっています。

1. 一般教育相談（相談室）

一般教育相談係

当相談室は、子育て・しつけの悩みなど学校や家庭で気になる子どもの様子・生活上の悩みなどについて相談し、解決のお手伝いをしていくところです。

例えば

- ・落ち着きがない
- ・情緒不安定で困っている
- ・友達と遊べない
- ・引っ込み思案である
- ・学校に行きたくない気持ちになる
- ・言葉で遅れているのではないかと心配である
- ・指しゃぶり
- ・ティックなど気になる癖がある
- ・おねしょで悩んでいる
- ・非行のおそれがあるのではないかと心配である
- ・自己や被害にあって、心が傷ついている
- ・・・などなど

相談のある方は、電話で予約をしてください。

電話相談

電話でお話を聞いて、お悩みや困っていることを一緒に考えて、良い方法や考え方があるかを相談します。

来室相談

電話で予約し、来室していただき、ゆっくりと相談いただけます。相談内容は、カウンセリング・遊戯療法・情報紹介などを行っています。場合によっては、より適切と思われる関係諸機関の紹介等も行っています。

「子どもこころの電話相談」があります。

- ・いじめられている。いじめられているのではないか。
- ・いじめにつながるのではないか・・・などなど

児童・生徒本人からの直通電話で相談を受けています。

電話番号	電話相談	042（592）1160
	子どもこころの電話相談	042（592）2782

受付は平日（月曜日から金曜日）の午前10時から午後5時までです。

*相談内容の秘密は守ります。

2. 学校生活相談

学校生活相談係

学校生活相談係は、学校生活における精神的悩み、人間関係での不満、不登校・登校渋り等、児童・生徒の環境をめぐる問題に関しての相談や支援、健全育成に関する調査並びに資料提供や助言を行っています。具体的な活動は次の通りです。

(1) 相談活動

学校生活上の問題や不登校に関する相談、適応指導教室「わかば教室」に入室している児童・生徒への計画的継続的な個別面談、ひきこもり傾向の児童・生徒への働きかけ

(2) 「わかば教室」通室児童・生徒への指導・支援

「安心して過ごせる学びの場」づくり、学校復帰・社会的自立への援助

(3) 健全育成に関する調査・助言

長期欠席児童・生徒の月別集計・考察、学校訪問、不登校児童・生徒の早期発見と初期対応・予防

(4) 学校・家庭・地域との連携

適応指導教室連絡会、活動状況報告の送付、保護者面談・保護者会・授業参観、通信、地域ネットワーク連絡会、スクールカウンセラー連絡会、地域を生かした体験活動

教育センター所員2名、カウンセラー1名、指導員5名、昨年度と同じ8名のスタッフですが、気持ちを新たに業務に当たっています。「わかば教室」の毎日の学習・生活全般にわたって、学生ボランティアの協力があります。教育センター3階が学校生活相談係のフロアです。

適応指導教室「わかば教室」(連絡先 ☎ 042-592-0863 FAX 042-592-1148)

「わかば教室」では、不登校や登校をしぶる児童・生徒の支援をします。具体的には、「わかば教室」に通う子どもたちが「安心して過ごせる学びの場づくり」に努めながら、好ましい人間関係、集団への適応能力、体力、学習への意欲、基礎となる学力、社会性や自立心の育成を目指し、個々の状況に応じて、個別あるいは少人数による指導・支援・相談をしています。

※入室を希望される方、内容を知りたい方はお気軽にご相談ください。



◇ 「わかば教室」の一日

朝の会(スポーツ・読書・歌)で始まり、学習タイム(国・社・算/数・理・英を中心に個に応じた学習指導)、わかばタイム(曜日毎に、スポーツ・栽培・音楽・図工・作文を実施)、ミーティング、個別面接(計画的・継続的なカウンセリング)の日程を組んで実施し、帰りの会で終わります。毎週水曜日の午後は「SST」の時間を設けています。子どもの状況によっては個別時程で指導・支援に当たっています。ふれあいを大切に、特に昼休みは、毎日元気にスポーツを楽しんでいます。

◇ 「わかば教室」の行事

遠足、酪農体験、誕生日会、スポーツ大会、音楽会、お茶会、老人ホーム訪問、地域の奉仕活動、夏休み学習会、新年を祝う会、卒業・進級を祝う会等
感動体験の重視、自らのよさや存在への気づきの学習、定期的に行うカウンセリングは情緒を安定させ、子どもたちは、ゆるやかに自信を取り戻していきます。

教育センター組織図



教育用：図書・VTR 各種・資料等 ご覧になりませんか？

日野市立教育センター内教育資料図書室（センター3階）には、これまでの教育関係資料が数多く収集・整理・保存されております。先生方はじめ市民の皆様方、教育について興味・関心をもたれたり、調べてみたいと思われたりしたときには、是非、当教育センター資料図書室にお出でになり、ご活用ください。所員一同、心よりお待ち申し上げます。

ご利用に当たっては、以下のようなことにご留意ください。

どこで 日野市立教育センター
高幡台団地南西部
夢が丘小学校隣

いつ 月曜 ～ 金曜
9:00～17:00

どなたに

- * 日野市に勤務する教職員（貸し出し・閲覧）
- * 日野市民（閲覧のみ）
- * その他センター所長に相当と認められた人



手続きは 教育センター2階 事務室（受付）に申し出る

- 貸し出しは**
- * 閲覧 3階 教育資料図書室
利用カードに必要事項を記入後事務室に提出する
 - * 帯出 ● 本人来所 貸し出し簿に必要事項記入する（2階受付）
● 電話・ファックスで申請する
図書のみ学校交換便にて発送する

- その他**
- * 同時貸し出し数 図書：4冊以内
VTR：2本以内
 - * 貸し出し期間 1ヶ月以内
 - * 忘失または破損の場合は、同一図書代納
または代価を弁償していただきます



- 返却は**
- * 本人持参
 - * 学校交換便（借りられた方が、後で、返却されたかどうかを電話で事務室に確認をしてください。）